

和歌山盲学校 令和4年度 第1回学校運営協議会記録

開催日時：令和4年6月28日（火）13:30～16:00 和歌山盲学校会議室

出席者：委員8名 傍聴人（本校職員等）8人

【議題等】 ●会長・副会長選出

●議題1「令和4年度の取組について」

●議題2「和歌山盲学校に期待すること」

【内容】

●議題1 令和4年度の取組について（学校評価シートに基づき事務局から説明）

・委員より

「JR西日本和歌山支社との連携について。茨城県立盲学校では視覚障害者への配慮事項について生徒会が作成したアナウンスを水戸駅で放送している。HPでも聞くことができる。参考にしてほしい」

「弱視学級を設置した学校として、多くの学びがあり、地域の中に見えにくさのある子どもがいることを啓発している。教育委員会とともに作成するハンドブックに期待する。」

「いろいろな取組をしていくことは説明を聞いてわかったが、在籍している生徒・保護者にすれば、今何をしてくれるのかという思いになる。保護者に寄り添うことが大切。」

●議題2 和歌山盲学校に期待すること（フリートーク）

○理療専門部への入学生について

・途中で視覚障害になった人の中には「もっと早く盲学校を知りたかった」というケースがある。中途障害の場合、最初につながるのは『医療』、その次は『福祉』。この間に盲学校へつながるような情報発信が必要。

・海南医療センターにロービジョン外来が設置された。担当医にこの会に来てもらって実状を共有してはどうか。

○視覚障害者の支援について

・卒業後の状況についてどこまで把握しているのか。困っていることは何か、経済的な自立はできているのか、など何に困っているかわかれば福祉の立場からも支援を考えていける。

・卒業生の場合、市町村福祉課より学校の方が状況を把握できているのではないか。

・盲学校の人材や資源を活用して中途視覚障害者を支援する『生活訓練科』が設置できないか。

○小中学校の立場から

・盲学校のセンター的機能による地域への支援は本当に心強い。「見えにくさ」について、一般の教員は知らないことが多く、気づかれていない子どもも多いように思う。

・視覚障害の特別支援学校が県内にはここしかない。紀南の小中学校にすれば、南にも視覚障害のことを相談できる特別支援学校があればと思う。

○地域との連携について

・地域ではコロナ前はみんなが盲学校の寄宿舍祭や文化祭を楽しみにしていた。復活することを期待している。

・駅などの公共施設には点字の表記があるが、点字を読める人がいないので正しいかどうか分からない。盲学校と一緒に確認したりして、誰もが使い勝手のよい施設となればと思う。

・JR西日本和歌山支社と連携した「点字ブロックキャンペーン」はよい取組だった。生徒の活動をHPなどでもっと広く広報してほしい。

●その他

・本校理療専門部の入学生募集について

・きのくにアイねっとHPの管理について（更新手続きは盲学校が担当することを確認）

※今年度の会議日程（10月、2月）を確認